

鉈子部デツツ上げ「再建」粉碎

日刊 勤労千葉

81.1.6
No. 624

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆)〇五三(22)七二〇七

勤労千葉結成以来の 総力あげ決起しよう

全組合員のみなさん。とりわけ鉈子支部組合員のみなさん。わが勤労千葉闘争委員会は、組織結成以来の勤労「本部」革マル反動分子との組織争闘戦に勝ち抜いてきた成果とその全力量をかけて、八一・三ジェット燃料輸送延長阻止闘争勝利と勤労大改革へむけて、鉈子支部デツツ上げ「再建」策動粉碎へ猛然と決起することを明らかにする。

「本部」革マル反動分子と密通した石毛(一)なる右翼ヤクザ分子と大川等の裏切り分子によって強行された鉈子支部「業務再開」決定なるものが、組合民主主義を破壊し、鉈子支部組合員の総意を暴力的威圧とどり喝によって踏みにじるばかりか、わが勤労千葉に敵対し組織破壊を権力・当局一体となって繰り広げる「本部」革マル反動分子の「出先機関」にしようとするものであるからだ。

十二・二三執行委員会決定は
ファッショ的暴挙であり無効

ある。勤労千葉千三百名組合員はこの卑劣なやり方を許しはしない。

「十二月二十三日の『業務再開決定』は納得できない」と鉈子支部の多くの組合員が語るように、この決定はファッショ的暴挙であり無効である。従って鉈子支部組合員はこの決定に拘束されないのである。

鉈子支部の組合員のみなさん。「業務再開」とはいかなることなのか、改めて考えてみよう。

鉈子支部は、十月二十七日の支部大会で「組織的には、中立であり現状を維持」と決定していたのではないか。それを今回の執行委員会決定なるものは、支部最高決議機関である大会の決定事項を、下部機関である執行委員会が大会にもはからず大会決定をくつがえすという、全くの組織運営のルールを無視した暴挙であるのだ。しかも、この決定に不服なものは脱退届を十二月三十一日まで提出せよと迫るやり方は、組合員の意見をいう場すら否定するという、「本部」革マル反動分子特有の「排除の論理」のやり方そのものである。労働組合として断じて許せないものである。

それは、鉈子支部が「本部」革マル反動分子と石毛(一)等の右翼ヤクザ分子の専横支配のもとにおかれ、あげくは勤労千葉解体のための「出先機関」に仕立てあげられんとするものである。今日勤労「本部」は、運動的にも路線的にも破産し革マルの代行機関よろしく唯一「運動」らしき「運動」としての「小谷謀略運動」へとめりこんでいる。しかも勤労千葉が存在するかぎり、「本部」革マル反動分子による勤労の全国支配がおもりにまかせない現状の中で勤労千葉解体を策動しているのである。その勤労千葉解体の「拠点形成」を鉈子に求めてきているのだ。

石毛(一)は、自らが十月二十七日の大会決定をぶちこわしておきながら「大会決定に従わないという者がいるから大会は開かない」と盗人猛だけしくキ弁をろうし、あまつさえ、陰にまわって「大会開催要求署名に協力するな」とどり喝しているという。これこそ「本部」革マル反動分子と密通した裏切り分子の卑劣な本性を自己暴露したもので

かかる「本部」革マル反動分子の手先になり、勤労千葉に敵対する側にたつのか、それとも勤労千葉と共にスクラムを組んで進むのか。今こそ問われていくのです。鉈子支部デツツ上げ「業務再開」を粉碎するために共に決起しよう。

全組合員、家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ

1/14

旗びら

13時 労作者福祉センター